

就職に困難を抱えるグレーゾーンの学生を対象とした、

ICT活用による情報共有支援ツールの開発2

—ツール入力を促進する要因の検討—

Development of information sharing tools to support transition from university to employment of students with vocational difficulties 2

—Examining factors that promote tool input—

小川 浩¹, 本田 周二², 千田 若菜³, 柴田 珠里⁴, 繩岡 好晴⁵, 工藤 陽介⁶, 窪 貴志⁷
Hiroshi Ogawa¹, Shuji Honda², Wakana Chida³, Juri Shibata⁴, Kousei Nawaoka⁵, Yosuke Kudo⁶,
and Takashi Kubo⁷

^{1,5}大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科, ²大妻女子大学人間関係学部人間関係学科,
³医療法人社団ながやまメンタルクリニック, ⁴就労移行支援事業所ワークアシスト,
⁶明星大学ユニバーサルデザインセンター, ⁷株式会社エンカレッジ

キーワード : ICT, 発達障害, 障害のある大学生, キャリア支援

Key words : ICT, Development disability, University students with disabilities, Career support

1. 研究目的

本研究は、平成31年度共同研究プロジェクト「就職に困難を抱えるグレーゾーンの学生を対象とした、ICT活用による情報共有支援ツールの開発」の継続研究である。申請者らは、昨年度、ICT活用による情報共有支援ツールを実際に使用することで、情報を共有することのメリットについて明らかにしてきた。一方で、本ツールに共有すべき情報を学生自身が入力することは容易ではないことも明らかとなった。具体的には、本ツールに入力するには、自己に対する理解に加えて、仕事や働くことに対する理解、通常雇用と障害者雇用のメリット・デメリットの理解、自分のキャリアをどのように形成していきたいかという将来展望が重要となるが、これらは就職活動を始める段階よりも前の段階（例えば、2、3年生）から取り組まなければならない。そして、これらの理解には、当人と支援者だけでなく、同年代の他者や企業で働いている人など様々な立場の人たちと議論することが重要である。そこで、本研究では、昨年度の研究を踏まえ、①発達障害のある学生の自己認識や職業意識はどのようなものであるのか、②発達障害のある学生が同年代の他者や企業で働いている人と議論する場（キャリア教育プログラ

ム）を提供することが、自己理解や仕事や働くことに対する理解を深め、本ツールへの入力が促進されるかどうか、③そのような機会を通して学生、企業双方の相互理解が進み、ミスマッチが減るかどうかについて明らかにすることを目的とした。

2. 研究実施内容

本年度は、まず、キャリア教育プログラムの実施に向けて、他大学の様々な部署に所属している障害学生支援の担当者との情報交換会を複数回開催した。その後、キャリア教育プログラムの試行版を作成し、実施した。

1) 情報交換会の開催

令和2年度は、共生社会文化研究所の「発達障害及びグレーゾーンの学生のためのキャリア教育プログラムの開発と実施プロジェクト」において下記3回の情報交換会を開催した。

第1回「障害学生に対するキャリア支援のための交流会（情報交換会）」2020年9月30日（水）16時～18時（Zoomによるオンライン）

ここでは、新型コロナウイルス禍におけるキャリア・就職支援について各大学でどのような取り組みが行われているのかについてZoomのブレイクアウトルームを用いて情報交換を行った。また、

支援に際して有用なツールである ESPIDD について情報提供を行った。そして、本研究で実施するキャリア教育プログラムの概要について説明を行った。

第2回「第2回障害学生に対するキャリア支援のための交流会（情報交換会）」2020年12月15日（火）15時～17時（Zoomによるオンライン）

ここでは、他校事例紹介として跡見学園女子大学における支援の実践事例について紹介してもらったのちに、現時点で抱えているキャリア・就職支援の課題について Zoom のブレイクアウトルームを用いて情報交換を行った。

第3回「第3回障害学生に対するキャリア支援のための交流会（情報交換会）」2021年1月19日（火）15時～17時（Zoomによるオンライン）

ここでは、現時点で抱えているキャリア・就職支援の課題について Zoom のブレイクアウトルームを用いて情報交換を行ったのちに、2月に実施予定のキャリア教育プログラムの詳細な内容について説明を行い、意見交換を行った。

2) キャリア教育プログラムの実施

令和2年度は試行版のキャリア教育プログラムを2つ作成し、実施した。

第1回「大学間連携キャリア教育プログラム～自分のことを知ろう～」2021年2月16日（火）15時～17時（Zoomによるオンライン）

本プログラムは、第1ワーク：自分の「好き・嫌い」をすること、第2ワーク：自分の「得意・苦手」を知ることという2つのワークによって自分の特性や身につけている力を知ることが目的としたものであった。個人ワークを行ったのちに、グループで意見交換をするというアクティブラーニング型のプログラムとなっていた。第1ワークでは、まず、練習課題として、好きな食べ物、嫌いな食べ物は何か、そしてその理由は何かについて書いてもらい、意見交換を行った。その後、好きなこと、嫌いなことは何か、そしてその理由は何かについて書いてもらい、意見交換を行った。第2ワークでは、これまでの人生の中での成功体験と失敗体験を思い出してもらい、それを自分の得意なこと、苦手なことに置き換えてもらい、意見交換を行った。

第2回「大学間連携キャリア教育プログラム～

学生と企業の交流会～」2021年3月4日（木）15時～17時（Zoomによるオンライン）

本プログラムは、企業による説明のあとに、学生、支援者および企業担当者が働くことに関して意見交換することを通して、働くことへの理解を深めることを目的としていた。意見交換のテーマとしては、「学生と社会人の違い」「働くことへの楽しさ」「働くことの大変さ」「自分の強みや弱みの見つけ方、向き合い方」「社会に出るために今した方がよいこと」「理想の働き方や生き方」を取り上げて意見交換を行った。

3. まとめと今後の課題

令和2年度は支援者との情報交換会を3回、試行版のキャリア教育プログラムを2回行った。情報交換会の成果としては、大学間での支援者同士のつながりを作ることができたこと、そして、互いの情報を交換することで知識を増やすことができたことがあげられる。試行版のキャリア教育プログラムの成果としては、参加者のアンケートから判断できることとしては、支援者とともに参加するプログラムにしたことで、学生と支援者のやり取りが深まったことや意見交換をすることによる理解の深まりを参加者が感じることであった点があげられる。

今後の課題としては、キャリア教育プログラムの教育効果を検証することがあげられる。今年度キャリア教育プログラムの教育効果を測定するためのプレポスト調査は作成したが、キャリア教育プログラムへの参加者が少なかったこともあり、実際にその効果を検証することができなかった。これは、プログラムの告知期間が短かったことが影響していることが考えられる。そのため、次年度には情報交換会とキャリア教育プログラムの実施時期をもう少し早め、支援者に早期の段階でどのようなプログラムであるのかについて説明をすたうえで、学生にすすめてもらえるような形に改善をしたいと考えている。

4. この助成による発表論文等

2021年度に学会にて発表予定である。